

「胆管空腸吻合部狭窄を伴う胆管炎患者の菌動態を検証するための後向き試験」について

1. 研究の対象

- 2016年4月1日～2023年3月20日の間に当院で胆管空腸吻合部狭窄に対して ERCP を施行し、胆汁培養を行った患者さん
- 上記患者さんの比較対象として、2022年4月～2023年3月20日の間に当院で非術後の初回胆管炎に対して ERCP を施行し、胆汁培養を行った患者さん

2. 研究目的・方法

急性胆管炎では、診断された後速やかに抗菌薬での治療を開始したのち、胆汁を培養することによって得られる結果に合わせ適切な抗菌薬へ変更します。肝外胆管の切除を伴う手術では、通常、胆管空腸吻合(胆管と空腸を縫い合わせる)を行います。この方法は膵癌や胆管癌の手術の際に行われますが、時間経過と共にまた胆道が狭くなってしまい胆管炎を発症することがしばしばあります。このときの胆汁の中の細菌は、解剖学的に手術を行わなかった患者さんとは異なる可能性があります。胆管空腸吻合部狭窄を伴う患者さんの胆管炎と、手術を行わない患者さんの初回胆管炎の菌動態を比較することで、胆管空腸吻合部狭窄を伴う胆管炎の菌動態を明らかにすることが目的です。電子カルテから患者さんの胆管炎や胆汁培養に関わるデータを抽出し比較検討します。

研究期間は病院長許可日から 2026年3月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、年齢、既往症、総胆管径、総胆管結石径、胆管炎の有無と重症度

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：磐田市立総合病院 消化器内科 科長 金子淳一